様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2015
課題番号：２３７２０３４８

研究課題名（和文）隋唐期における墓誌史料の研究基盤情報の整理と分析

研究課題名（英文）A Statistical Analysis And Reorganization of the Basic Information of Epitaphs in the Sui and Tang Dynasties

研究代表者
福島　恵（Fukushima, Megumi）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・研究員

研究者番号：１０５２３７６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：中国隋唐時代、死者と共に埋葬され、死者の功績や血筋を石刻した墓誌は、現在、当該時代研究に不可欠な史料である。本研究では、墓誌史料の研究基盤となる情報（出土地・埋葬年・サイズ等）の整理とその傾向分析を行い、これまで不明瞭であった墓誌史料の基礎的な性格を解明することを目的とした。
利用したのは隋唐五代期の墓誌拓本集成で最も掲載数が多い『隋唐五代墓誌彙編』全30冊（陳長安等主編、天津古籍出版社、2009年）と隋代の墓誌拓本集成として最多件数を掲載する『隋代墓誌銘彙考』全6冊（王其〓（衣＋韋）等編著、線装書局、2007年）である。統計分析の結果は『学習院大学国際研究機構研究年報』第2号に掲載した。

研究成果の概要（英文）：Epitaphs, stone-inscribed character material, in the Sui and Tang Dynasties buried with the deads with inscription of the deads’ merits and lineage are indispensable historical records for the study of the period. In this study, the researcher intended to unveil their basic characteristics such as their location, dates of burial, their dimensions which have been somewhat un-clear until now. The materials studied are "Sui Tang Wu-dai Mu-zhi Hui-bian", total 30 volumes, (Main editor Chen Chang'an, Tianjin : Tianjin gu ji chu ban she, 2009) which is the largest collection of rubbings of epitaphs from the Sui and Tang Dynasties and "Sui dai mu zhi ming hui kao", total 6 volumes, (Main editor Wang Qihui, Beijing : Xian zhuang shu ju, 2007) which is the largest collection of rubbings of epitaphs from the Sui Dynasty. The result of the analysis is published in "The Annual Bulletin of the Global Exchange Organisation for Research and Education Gakushuin University", Vol.2-2016, pp.164-179.

研究分野：北朝隋唐史

キーワード：墓誌　隋唐史　石刻

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで，中国史上，最も国際色豊かで，多くの民族が行き交ったといわれる唐時代を中心として，その国際性の要因とされる「ソグド人」の活動について，墓誌史料を用いて研究を行ってきた。

「ソグド人」は，現在のウズベキスタンとタジキスタンの一部，アム＝ダリアとシル＝ダリアとの間のソグディアナ地方と呼ばれるオアシスに住んでいたイラン系の人々で，シルクロード交易を一手に担っていたとされる。彼らは遅くとも三国時代には中国に交易のために訪れるようになり，以後 8 世紀中頃にソグディアナ本土がイスラム化し，シルクロード交易をウイグル商人に取って代わられるまでの約 750 年間，ユーラシア大陸を股にかけて活躍した。彼らソグド人の中には，中国に移住したものも少なからずおり，中国で死亡したソグド人には，現地の埋葬方法に準じて埋葬された者がみえる。その埋葬の際に作成されたのが墓誌である。

「墓誌」は，墓主の功績を石材に刻み，墓中に埋めたもので，その多くは姓・諱・字・官職などを讃辞とともに数百ほどの文字として記したものである。墓誌の始まりには諸説あるが，一説には曹操が漢末の 205 年（建安 10）に日常生活における質素倹約を奨励し，派手な葬儀や墓碑の建立を禁止したことで，地上に墓碑を立てることが困難となったために，墓碑よりも小型の墓誌を作り墓室の中に埋めたことだとされている。その後，一貫して墓誌の作成は引き継がれ，南北朝期には，石が方形で蓋と誌とのセットとなる形式や文章構造がほぼ画一化され，その作成数は唐代にピークを迎えることとなる。

従来，墓誌史料は拓本で取引されていたが，文化大革命後の 1980 年代になると拓本の整理が進み，現地中国の印刷技術の向上も相俟って，次第に安価で美しい拓本集が出版されるようになり，日本の研究者でも大量の墓誌の利用がようやく可能となった。現在，唐代のものだけでもその数 8,000 件をゆうに超え，魏晋南北朝隋唐史の研究において文献史料を補い，新事実を知ることのできる史料として不可欠な存在となっている。近年は，梶山智史「隋代墓誌所在総合目録」（『東アジア石刻研究』創刊号，2005：その後『北朝隋代墓誌所在総合目録』汲古書院、2013 として出版）や氣賀澤保規『新版唐代墓誌所在総合目録（増訂版）』（明治大学東アジア石刻文物研究所，2009）など墓誌目録が刊行され，墓誌を利用した研究環境が整ってきたところである。ただ，墓誌は１件であっても，記載内容が多岐にわたり，多くの情報を含んでいるために，今まで墓誌史料を利用した研究は，ごく少数を利用して行われることが多く，その全体像を把握した研究は数少なかった。それは，墓誌史料が数量的に膨大であると同時に，美辞麗句などの特殊表現を多用するために，その取り扱いには時間を要するためでもある。墓誌を数量的に使用した基礎的な研究は，その必要性を認識されながらも放置されてきたのである。

これまで研究代表者は，中国へ東方移住したソグド人の動向を探るために，ソグド人漢文墓誌を網羅的に収集して傾向分析をしてきた。上述したように，これまで墓誌を使用した研究は，ごく少数の墓誌に限定し，かつその一部分を使用して行われてきた。それは，ソグド人墓誌を扱った研究においても例外ではなかった。この方法は，決して間違ったものではないが，本来は，墓誌史料全体の傾向分析という基礎的研究の上にやっとはじめて成り立つものである。そこで，申請者は，これまでソグド人墓誌を網羅的に収集し，その全体的な傾向の分析を行ってきたのである〔福島 恵『ソグド人漢文墓誌の研究』博士論文，学習院大学，2009.3〕。これまでの研究によってソグド人墓誌の傾向を掴むことはできたが，墓誌史料そのものの性格についての研究基盤情報の整理とその分析が行われておらず，ソグド人墓誌の示した傾向を同時代の墓誌中に位置づけることができない状況である。これは，研究代表者のソグド人墓誌の研究だけに見られる状況ではない。例えば，2004 年，日本人遣唐使井真成の墓誌が西安で発見された際，その墓誌から井真成の唐王朝下での社会的地位について様々な見解が出されて議論された。これも墓誌史料全体の研究基盤情報の整理と分析が欠如していたために起こった議論である。そこで，本研究によって，ソグド人墓誌の傾向分析で培った方法を利用して，隋唐時代墓誌史料の研究基盤情報の整理とその傾向分析を行い，史料の基礎的性格を解明しようとしたのである。

２．研究の目的

本研究の目的は，墓誌史料の研究基盤となる情報の整理とその傾向分析を行い，史料の基礎的性格を解明することである。中国隋唐時代，死者とともに埋葬され，死者の功績とその血統などを数百の漢字で石刻して記した墓誌は，現在，当該時代の研究には不可欠な史料である。ただし，墓誌は，たった１件でもその豊富な内容から研究価値を有すること，墓誌の数が膨大であることから，これまで数量的な研究がされず，史料の基礎的性格があやふやなままであった。そこで，本研究では墓誌史料を数量的に扱い，研究基盤となる情報の整理とその傾向分析を行う。

３．研究の方法

以上に記した研究の背景と目的から，以下の二つの内容で研究を進めた。

（１）隋・唐時代の墓誌史料の研究基盤情報の整理とその傾向分析：

本研究では『隋唐五代墓誌彙編』全 30 冊（陳長安 等主編，天津古籍出版社，2009 年）と『隋代墓誌銘彙考』全 6 冊（王其褘・周暁

薇編著，線装書局，2007 年）を利用した。前者は，隋唐五代期を通じた墓誌拓本集成として，後者は隋代のみの墓誌拓本集成としてそ研究代表者れぞれ最も掲載数が多いものである。研究基盤情報の整理と分析は次の手順で行った。

①墓誌の研究の基盤となるデータを表計算ソフトに入力してデータベース化する。

②データベースの各項目について，表計算ソフトを利用して統計分析を実施する。

（２）ソグド人墓誌との比較および網羅的傾向分析の継続：

これまで研究代表者が行ってきたソグド人墓誌の電子データ化と傾向の分析を継続させる。特にソグド墓誌に共通して見られる語句の分析に力を入れる。

４．研究成果

（１）隋・唐時代の墓誌史料の研究基盤情報の整理とその傾向分析：

本内容の研究成果を集約したものとして，福島恵「隋唐期における墓誌史料の研究基盤情報の統計分析」（『学習院大学国際研究教育機構研究年報』2，2016，pp.164-179）を発表した。その内容をまとめれば以下のとおりとなる（本報告書ではスペースの都合上，図表を全て掲載できないので上掲論文を参照されたい）。

①『隋唐五代墓誌彙編』（全 30 冊）

墓誌のサンプル数は 4785 件であり，墓誌蓋のサンプル数は 1575 件であった。『隋唐五代墓誌彙編』が収録する墓誌の年代（『隋唐五代墓誌彙編』の分析では「年代」の表記は，5 年区切りとし，その中でも最も早い年を記す）の上限は 580 年（＝580～584 年），下限は 960 年（＝960～964 年）であった。

・墓誌の年代：隋の統一（589 年）以降，特に煬帝の即位（604 年）以降に増加し，隋末唐初の混乱期（616 年頃～）に一時減少するものの，唐の建国（618 年）と統一（628 年）以後に再び増加し，660 年（＝660～664 年）にピークを迎え，その後多い状態を維持するものの，安史の乱（755～763 年）で急激に減少した。その後徐々に回復するものの，黄巣の乱（875～884 年）で再度減少し，その後，唐の崩壊～五代期には低調となった。以上より，墓誌の件数は王朝の成立や崩壊，大規模反乱など，国内の情勢に多大な影響を受けていると言える。

・墓誌の出土地：上位 4 省とその件数は，河南省＝3180 件，陝西省＝801 件，山西省＝197 件，河北省＝183 件で，河南省から出土したものが圧倒的に多いことが分かった。

・墓誌・墓誌蓋のサイズ：図表 1-6 の平均値・最頻値を見れば，墓誌と墓誌蓋とのタテ・ヨコはそれぞれほぼ同値であることが分かる。墓誌と墓誌蓋の最頻値を比べると，墓誌は墓誌蓋に比べて 1～2㎝ 大きいが，その差は僅かであるので，墓誌・墓誌蓋の大きさはほぼ揃っていると言える。なお，墓誌と墓誌蓋のタテとヨコの長さには相関関係にあることも分かり，ほぼ正方形だと言える。また，『隋唐五代墓誌彙編』に記載される墓誌のサイズは，「拓片（拓本）」と「誌石（石のそのもの）」との区別があり，その２者に差があるのかを調べた。特に墓誌のタテ・ヨコ及び蓋のヨコの長さの差は統計上で有意であると認められる。これは，拓片（湿拓）は紙を湿らせて採取するが，採取時点では誌石と同じサイズであっても，その後に採取した紙が乾燥すると多少縮むためであると考えられる。ただし，この収縮幅は紙質にも左右されるはずなので，各々の拓本で一様でないとみられる。

図表 1-6（抜粋）：墓誌・墓誌蓋のサイズ

		標本数	平均値	最頻値
墓誌	タテ(㎝)	4776	48.117	45
	ヨコ(㎝)	4774	47.935	45
	面積(㎝^{2})	4773	2476.229	2025
蓋	タテ（㎝）	1568	44.622	44
	ヨコ（㎝）	1569	44.534	43
	面積(㎝^{2})	1541	2280.961	1936

・書体：墓誌の書体は，隷書・行書も見られるが，楷書が対象とした年代を通じて，最も一般的な書体であり，楷書の件数の変動は墓誌の件数そのものを反映していることが分かった。墓誌蓋の書体は，篆書が対象とした年代を通じて最も一般的な書体であることが分かった。

・撰者・書者・鐫者：撰者・書者・鐫者の情報は 715 年頃（＝715～719 年）から徐々に記されるようになり，墓誌の作成数が減少する 760 年（＝760～764 年）に一時減少するが，その後はまた増加することが分かる。この増加の具合は，墓誌の年代による数量の変化（図表 1-1）でみられた増加よりも急激なものなので，この時期に撰者などの情報が墓誌に記されるようになることを示している。

②『隋代墓誌銘彙考』（全 6 冊）

墓誌のサンプル数は全部で 472 件，墓誌蓋のサンプル数は全部で 206 件である。『隋代墓誌銘彙考』が収録する墓誌の年代（『隋代墓誌銘彙考』では 1 年区切りで示す）の上限は 582 年，下限は 627 年であった。

・墓誌の年代：隋が陳を滅ぼして中国を統一した 589 年に一度目のピークを迎え，文帝の末期である 601 年にも二度目のピークが見える。その後の二代皇帝の煬帝の位に就いてからは（604 年～）は，増減を繰り返しながらも徐々に件数は増加した。

・墓誌の出土地：上位 4 省は河南省＝249 件，陝西省＝99 件，河北省＝40 件，山西省＝24 件であって，やはり河南省が最も多いことが分かった。

・墓誌・墓誌蓋のサイズ：平均値・最頻値を見れば，墓誌と墓誌蓋とのタテ・ヨコはそれぞれほぼ同値であることが分かる。墓誌・墓誌蓋の大きさについては，墓誌蓋の値が墓誌に比べて若干大きいものの，その差は 3 ㎝程度であってほぼ揃っていると言える。

図表 2-6（抜粋）：墓誌・墓誌蓋のサイズ

		標本数	平均値	最頻値
墓誌	タテ（cm）	446	47.224	48
	ヨコ（cm）	444	46.396	48
蓋	タテ（cm）	97	49.793	44，51，56
	ヨコ（cm）	96	49.257	46

・書体：墓誌・墓誌蓋ともに，楷書・隷書・篆書がある。墓誌の場合はさらに，楷書と隷書，楷書と篆書，隷書と篆書などのように複合しているものも見られた。ただし，墓誌は楷書が，墓誌蓋は篆書がそれぞれ隋代を通じて最多であった。

・行数・字数・文字数：ここでは，1 行あたりに記された文字の数を「字数」，墓誌に記された文字全部の数，つまり「行数」と「字数」を掛け合わせた値を「文字数」とした。墓誌の行数と字数は，ほぼ同数の相関関係にあることが分かり，墓誌は行数・字数を計算して刻していたことが分かる。蓋は 3 行 3 字が最も多く，2 行 2 字，4 行 4 字，5 行 5 字というように行数・字数が同数となることが好まれたことが分かった。また墓誌の文字数の最頻値からは，原稿用紙一枚分（20 字×20 行＝400 字）が最も一般的な墓誌の文字数であることが分かった。

③結論

以上の『隋唐五代墓誌彙編』・『隋代墓誌銘彙考』の分析から，共通して言えるのは，①墓誌の件数は国内情勢に大きく左右されること，②出土地は圧倒的に河南省（洛陽）が多いこと，③墓誌の形状は基本的に正方形であること，④書体は墓誌が楷書で墓誌蓋は篆書が多いことである。

この共通点以外で，『隋唐五代墓誌彙編』の分析から判明した特に重要だと思われる点は，①墓誌の件数のピークは，660 年（＝660～664 年）であること，②墓誌で最も一般的なサイズは 45cm 四方であること，③最大の墓誌は魏博節度使であった「何弘敬墓誌」（タテ・ヨコ 195cm）であり，藩鎮体制はその地域での墓誌の件数にも影響を与えたとみられることである。

『隋代墓誌銘彙考』では，①煬帝が皇帝となって洛陽に遷都（605 年）して以降，隋末の混乱期の前年（615 年）まで，隋代墓誌の件数は徐々に増加してピークを迎えること，②隋代墓誌の最も一般的なサイズは，48cm 四方で唐代より若干大きいこと，③文字数は，墓誌が 20 字×20 行＝400 字，墓誌蓋が 3 字×3 行＝9 字が最多であることである。

今回の分析は，『隋唐五代墓誌彙編』と『隋代墓誌銘彙考』に限定して行ったものである。以上で述べた分析結果は，隋・唐・五代期の墓誌を研究する上で墓誌史料の基盤となる情報としてある程度は有効なものであると考えられるが，この 2 つの拓本集成が出版された後も続々と墓誌が公開・報告されていて，それらを加えると数値に変化が出るとみられ，この点に注意が必要である。

（2）ソグド人墓誌との比較および網羅的傾向分析の継続：

ソグド人墓誌の網羅的収集とその墓誌内容と本文との電子データ化は計画通りに行うことができた。2016 年 3 月時点で，北朝～北宋時代のソグド姓をもつ墓誌は 387 件であり，夫婦合葬の場合などを考慮すればそこから 503 人分の情報を得ることができ，そのうち 180 人はソグド人であるといえることが判明している。

ソグド人墓誌を分析した成果としては，特に福島恵「長安・洛陽のソグド人」（森部豊編『アジア遊学：ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』勉誠出版，2014；pp.140-160）をあげることができ，長安・洛陽におけるソグド人の在り方の一端を解明できた。

なお，本研究の総合的な成果の一部を一般に公表する場として，展覧会「中国文字博物館漢字展－中国古代文明の歴史を探る－」（2014 年 7 月 15-25 日：於東京中国文化センター）にて墓誌の拓本の展示に協力し，「墓誌史料とソグド人」と題して関連講演を行った。

5．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

①<u>福島 恵</u>「唐の中央アジア進出とソグド系武人－「史多墓誌」を中心に－」『学習院大学文学部研究年報』59，2012，pp. 27-54

②<u>福島 恵</u>「北朝隋唐期におけるソグド人の東方移住とその待遇－新出墓誌史料を中心に－」『唐代史研究』16，2013，pp.6-37

③<u>福島 恵</u>「隋唐期における墓誌史料の研究基盤情報の統計分析」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』2，2016，pp.164-179

④<u>福島 恵</u>「唐代における景教徒墓誌－新出「花献墓誌」を中心に－」『唐代史研究』19，2016 年 8 月刊行予定

〔学会発表〕（計　5 件）

①<u>福島 恵</u>「墓誌史料より見たソグド人の東方移住の経路について」2012 年度唐代史研究会夏期シンポジウム，2012.8.20，於神奈川県箱根町強羅静雲荘

②<u>福島 恵</u>「シルクロード青海の道上のソグド人–「康令惲墓誌」を中心に」第 7 回東アジア石刻研究会，2014.7.26，於明治大学

③<u>福島 恵</u>「絲綢之路青海道上的粟特人–从看“康令惲墓志”鄯州西平康氏一族–」第二届絲綢之路国際学術討論会“粟特人在中国：考古発現与出土文献的新印証”，2014.8.13，於中国寧夏銀川柏悦酒店，中国語

④<u>福島 恵</u>「唐代における景教徒墓誌－新出「花献墓誌」を中心に－」2015 年度唐代史研究会夏期シンポジウム，2015.8.18，於

早稲田大学
⑤福島 恵「唐前半期における馬の域外調達－宦官「劉元尚墓誌」を中心に－」学習院大学国際研究教育機構国際シンポジウム古代東アジア都市の馬と環境，2016.1.23，於学習院大学

〔図書〕（計　4 件）
①森部豊編『アジア遊学：ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』勉誠出版，2014；福島 恵「長安・洛陽のソグド人」pp.140-160
②福島 恵『隋唐期における墓誌史料の研究基盤情報の整理と分析』平成 23～27 年度科学研究費補助金若手研究（B）研究成果報告書，2016.2
③羅豊・栄新江編著『絲綢之路上的粟特人』寧夏文物考古研究所，2016 年刊行予定；福島 恵「絲綢之路青海道上的粟特人-从看“康令惲墓誌”鄯州西平康氏一族-」（海外（中国）書籍，中国語）
④鶴間和幸編著『古代東アジア都市の馬と環境』汲古書院，2017 年刊行予定；福島 恵「唐前半期における馬の域外調達－宦官「劉元尚墓誌」を中心に－」

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
福島　恵　（FUKUSHIMA，Megumi）
早稲田大学・教育・総合科学学術院・研究員
研究者番号：10523764

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし（　　）

研究者番号：